

「イサクのゲラル滞在」

2021年03月10日

あるとき、土地の人々がイサクに妻のことを尋ねた。彼は、「彼女は私の妹です」と答えた。リベカが美人であったので、土地の人々がそれを理由に自分を殺すかもしれないと思い、妻だと言うのを恐れたからである。(創世記 26 章 7 節)

イサクは、美しい妻のゆえに自分が殺されることを恐れ、妹と偽って、身の安全を謀ろうとした。これは、アブラハムも、エジプトやゲラルでしたことで、親子が同じ過ちを犯している。イサクの場合は、多少事情が異なっているが、異民族間を放浪することがいかに危険であったかを示す出来事である。

アブラハムの時代にもあったが、また、飢饉が起こった。当時、飢饉は住民にとって、最も恐ろしい天災であった。イサクは、ペリシテ人の王アビメレクが支配するゲラルに入った。ゲラルはカナン最南端で、エジプトの近くである。イサクは、飢饉に強い農業国のエジプトに避難しようとしたのではないか。この時、神が現れ、「エジプトに下って行ってはならない。私が示す地に住み、その地に滞在しなさい」と言われた。そして、下記のように言われた。私はあなたと共にいて、あなたを祝福する。あなたの父アブラハムに誓った私の誓いを果たす。私はあなたの子孫を空の星のように増やし、これらの土地をあなたの子孫に与える。地上の全ての国民はあなたの子孫によって祝福を受ける。アブラハムが私の声に従い、私に対して守るべきこと、即ち、私の戒め、掟、律法を守ったからである、と。アブラハムの神への信従のゆえに、神はアブラハムに約束した祝福を必ずイサクに与えると言われた。イサクは、神の言葉を信じ、ゲラルの地に滞在した。

ところが、美しい妻を持つと心配事が絶えないらしい。「土地の人々がイサクに妻のことを尋ねた。彼は、『彼女は私の妹です』と答えた。リベカが美人であったので、土地の人々がそれを理由に自分を殺すかもしれないと思い、妻だと言うのを恐れたからである。」アブラハムの場合は、妻サラはエジプトのファラオ、ゲラルのアビメレク王の側室に召し抱えられたが、イサクの場合は、リベカはイサクの妹であると言い触らただけである。イサクは、この地に長く滞在し、ペリシテの王アビメレクも、この話を聞いた。ある日、アビメレクが王宮の窓から、イサクが妻リベカと戯れているのを見た。その戯れ方は、兄と妹の関係ではなく、明らかに夫と妻の戯れであった。アビメレクはイサクを呼び寄せ、「彼女は、本当はあなたの妻ではないか。それなのにどうして『彼女は私の妹です』などと言ったのか。」イサクは、「私は彼女のことで殺されはしないかと思ったからです」と答えた。アビメレクは、「何ということをしてくれたのだ。もう少しで、民の誰かがあなたの妻と寝るところであった。あなたは私たちに過ちを犯させようとしたのだ」と咎めた。そして、民に「この男とその妻に害を加える者は必ず死ななければならない」と命じた。アブラハムの時と同じように、偽った方が罰せられず、偽られた方が被害を受けるという。そして、アビメレクは民に、イサクとリベカには害を加えるなと命じ、彼らを保護する高潔な王であった。神は、偽った方を罰し、裁かれるのではないかと思うが、ここでも神に選ばれた者への祝福は確かであると伝えている。神は選んだ者を愛する偏愛を貫く。

イサクは、この土地で種を蒔き、百倍の収穫を得た。神が彼を祝福されたので豊かになり、ますます栄え、裕福になった。羊や牛の群れ、多くの僕を持つようになった。そのことが、ペリシテ人から妬みを買うようになった。